

特集「新しい時代に向けて英知を結集する コラボレーション技術とネットワークサービス」の 編集にあたって

齊藤 典明^{1,a)}

パソコンやスマートフォンをはじめとする様々な情報通信機器が様々な年代、様々な利用者層に普及し、ネットワークサービスは社会生活において幅広く定着した。現在は複数のネットワークサービスが複雑に連携して我々の社会生活を支えている。そのことにより大量に集まる社会データを効果的に活用し社会生活を豊かにする期待も高まっている。一方で、複雑なネットワークサービスの隙間を狙うサイバー攻撃の増加・深刻化でセキュリティへの不安もまた高まっている。これらの ICT 環境の転換現象に加えて、社会構造の少子高齢化、産業構造のグローバル化、エネルギー問題、災害対策・復興支援、2020 年東京オリンピックなど未来に向けた魅力あるネットワークサービスの創出など、様々な社会的課題がある。社会的課題に ICT で貢献してゆくためには、ICT に関わる多くの人たちの英知を結集し、様々な脅威や環境の変化を乗り越えてゆく必要がある。その中では、高度なコラボレーション技術の活用や魅力的なネットワークサービスの実現が期待されている。そこで、現在直面している社会問題の解決や来るべき未来への期待にグループウェアおよびネットワークサービスによって貢献することを狙って、今回の特集号を企画した。

特集号で扱うトピックとして知識・情報共有、ソーシャルコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、セキュアなネットワークサービス、医療・福祉のためのネットワークサービス、防災・減災のためのネットワークサービス、分散コラボレーション、教育・学習支援、コミュニケーション研究の理論・技術・応用・評価ならびにグループウェアとネットワークサービスに関する論文を広い範囲で募集した。

投稿された論文は、当初のほぼ予定通りとなる 42 件であり、最終的に 17 件の論文を採録した。採択率は 50% の予定に対して 40% とやや低めになった。カテゴリ別では、「ソフトウェア工学」で 2 件投稿され 1 件採録、「ネット

ワーク・インターネット応用」で 6 件投稿され 1 件採録、「言語メディア処理と情報コンテンツ」で 2 件投稿され 2 件採録、「インタラクション」で 29 件投稿され 11 件採録、「情報と人文・社会科学」で 3 件投稿され 2 件採録となった。また 1 回目の査読で条件付き採録となった 26 件の論文中 7 件の論文について 2 回日照会を実施し、より多くの論文を採録しつつ質の向上に努めた。

採録された論文はどれも時代を反映した優れた論文であり、これからのグループウェアとネットワークサービスの研究開発の発展に寄与することを期待している。今回残念ながら不採録になった論文についても優れた論文が多く今後の再投稿を期待し、編集委員会で議論を重ね丁寧にコメントを返すことを心掛けた。

最後に本特集号を編集するにあたり、魅力的な論文を投稿していただいた著者の皆様、あらゆる段階で労をいとわず作業を進めたいいただいた高田秀志幹事をはじめとする編集委員の皆様、厳しいスケジュールの中で熱心かつ丁寧に査読していただいた査読者の皆様、スケジュール管理を含め様々な支援をしていただいた学会担当者の方々に心より感謝致します。

「新しい時代に向けて英知を結集するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号編集委員会

- 編集長
齊藤典明（日本電信電話）
- 幹事
高田秀志（立命館大学）
- 編集委員（五十音順）
市村 哲（東京工科大学）、市川裕介（日本電信電話）、市野順子（香川大学）、井上智雄（筑波大学）、大平雅雄（和歌山大学）、岡田謙一（慶應義塾大学）、岡本昌之（東芝）、金井秀明（北陸先端科学技術大学院大学）、金子 聡（日本アイ・ビー・エム・サービス）、川口信隆（日立製作所）、桑 照宣（富士通研究所）、小林

¹ 日本電信電話（株）
Nippon Telegraph and Telephone Co., Musashino, Tokyo
180-8585, Japan

a) saito.noriaki@lab.ntt.co.jp

稔 (明治大学), 関 良明 (東京都市大学), 高橋正道 (富士ゼロックス), 中村亮太 (湘北短期大学), 中道上 (福山大学), 樋山淳雄 (東京学芸大学), 服部 哲 (駒澤大学), 三樹弘之 (沖コンサルティングソリューションズ), 宗森 純 (和歌山大学), 由井蘭隆也 (北陸先端科学技術大学院大学), 吉野 孝 (和歌山大学)